

《 クラス別自己チェック評価 まとめ 》

認定こども園 白銀台保育園

令和6年度の評価点

【つくし組(0歳児)】

- ・ スキンシップをとり、子ども達が安心して過ごせるように心掛けた。
- ・ 基本の挨拶をしっかりとするように心掛けた。
- ・ 複数担任であるため、意見交換や連絡等の話し合いを密にした。
- ・ 月齢差に応じた関わり方を工夫して取り組んだ。
- ・ クラスでのミーティングを頻繁に行い、互いに意見交換をしながら、子ども一人ひとりの情報や対応が共有できた。
- ・ 保護者にできるだけ寄り添い、また伝言や意見などを細めに伝え合い、職員間のコミュニケーションを大切にした。
- ・ 子どもの目線に合わせ接するように心掛けた。
- ・ 成長した部分やできたこと等、保育者同士で伝え合い、子ども一人ひとりの理解につながられた。
- ・ 検温や午睡チェック忘れがないように、声を掛け合った。
- ・ 室内での活動時の遊びにもう少し工夫すべきだった。

次年度への課題・改善点

- ・ 常に連絡を徹底し、伝達ミスがないようにする。職員間で情報を共有する、
- ・ 保護者とのコミュニケーションを密にし、できるだけ保護者の気持ちに寄り添うよう心掛ける。
- ・ 小さなケガやトラブルなど見ていなかったということのないよう、目を配り職員間同士の位置などに配慮する
- ・ 一人ひとり個々の成長に合わせた対応、接し方を心掛けていく。
- ・ 職員間でのコミュニケーションの取り方など私語とらわれないように注意する。
- ・ コーナー遊びでは、メリハリのある遊びの工夫をする。
- ・ 毎日の遊具消毒の徹底に努める。
- ・ 子ども一人ひとりの個性にあった声かけ、対応をし子どもの個性を伸ばせるようにしたい。
- ・ 子ども達の気持ちを汲み取り、共感し発達状況にあわせ働きかけるように努める。
- ・ 共有スペース等、みんなが気持ちよく使用できるよう、丁寧に扱ったり片付けたりする。

令和 6年度の評価点

【つくし組(1歳児)】

- ・ 子ども達ができた時の喜びを共有することを心掛けた。
- ・ 子どもの成長した部分、気になる点を職員間で共有できた。
- ・ 発達に個人差があり、遊びの環境設定に難しさを感じた。
- ・ お部屋の遊具等の消毒・換気を徹底し感染予防に努めた。
- ・ 健康状態を担当それぞれが把握し、保護者への協力を求めながら感染症対策に取り組んだ。
- ・ 保護者の気持ちに寄り添うよう心掛ける。
- ・ スキンシップをとり、子ども達が安心して過ごせるように職員間でコミュニケーションをとれるように心掛けた。
- ・ 行事等、早めにクラスで話し合い早めに準備するように心掛けた。
- ・ 複数担任という事もあり声を掛け合いながら保育できたので、心に余裕を持って接することができた。
- ・ 登校園時に、保護者が園内に入ることにより、より保護者とのコミュニケーションがとりやすく感じられた。

次年度への課題・改善点

- ・ コミュニケーションの取り方で、連絡ノートでのやり取りも一つの方法ではあるが、積極的に話しかける必要性もあるのではと感じる。
- ・ 職員間で積極的にコミュニケーションをとる。伝え漏れがないようメモ等をとる。
- ・ こまめにミーティングを行い、いろんな事を相談しながら、良い保育につなげていく。
- ・ 気になる子への支援の仕方を職員間で話し合い共通理解、し保護者への伝え方を共通理解のもと進めて行くようにする。 次年度までの目指す子どもの姿を共通認識する。
- ・ 感染予防対策を徹底し、遊具消毒やこまめな換気に気を配る。
- ・ 疑問に思ったことはその都度話し合い、意見を出し合えるよう職員間でのよりよい関係性を築く。
- ・ 室内遊びを広げ、子ども達を楽しませる工夫が必要だと感じた。
- ・ 禁止用語、言葉遣い、こどもの呼び捨てに気を付ける。
- ・ できたことを子どもと共に喜ぶとともに、やる気につながる軸を見つけられる様に記録の振り返りを行っていく。

令和 6年度の評価点

【 すみれ組(2歳児) 】

- ・ 一人ひとりの個性に合わせて、声掛けや対応をするように心掛けた。
- ・ 職員間でのコミュニケーションを図り、行事の準備等余裕を持って進めていくことができた。
- ・ クラスミーティングを頻繁に行うようにして、その都度子ども達についての共通認識をしながら日々の保育をすることができた。
- ・ 子ども達も保護者も楽しめる行事を行うことができた。
- ・ 保護者とのコミュニケーションまた信頼関係を築く難しさを感じた。連絡帳でのやり取りも大切だが、大事なことは直接口頭で伝えるべきだと感じた。
- ・ 感染予防対策として、遊具消毒・換気を徹底した。また、何かあった時の対処にもシミュレーションしながら試みた。
- ・ 子ども達との信頼関係を築き、安心して過ごせる環境作りをするよう努力した。

次年度への課題・改善点

- ・ 気になる子への対応に手がかかってしまい、クラス全体が落ち着かない状況の時には、他の職員とも協力してもらうように話しあっていく。
- ・ 個々の健康面や情緒面を把握して常に話し合い、一人ひとりに合わせた丁寧な保育を目指し成長を見守る。
- ・ 子どもへの叱り方、また注意された子どもへのフォローの仕方など園全体で共通意識をもって接する必要があると感じる。
- ・ 職員の子どもに対することば遣いや態度が適切でない場面もあった。これも園全体で共通しながら改善すべきと感じた。
- ・ 進級に向けて、常に以上児職員との連携を密にして、スムーズに進級できるように努める。
- ・ 自分でできる、自分でやろうとする気持ちを大事に受け止め、見守り・励まし必要に応じて援助していく。
- ・ 室内遊び特にコーナー遊びの設定に工夫が足りないと感じた。
- ・ 引き続き、遊具の消毒・こまめな換気に努める。

令和 6 年度の評価点

【 以上児組（3・4・5歳児） 】

- ・ 行事では、見通しを持って準備する事ができ、また、時間をかけて信頼関係を築くことができ、様々な行事を子ども達と一緒に楽しむことができた。
- ・ 日々の生活、行事等、以上児クラスが常に団結し細めな話し合いを行いながら進めることができた。
- ・ 以上児3クラスの担任同士が十分に意見交換・情報交換して取り組むことができた。また、行事に向けて、先を見越した計画をたてて取り組むように努めた。
- ・ 登降園時の視診の徹底、こども一人ひとりに合わせた援助が行えるように努めた。
- ・ 一人ひとりの特徴を見て、その子にあった対応に心掛けた。
- ・ 以上児・未満児ともに気になる親や子どもの情報交換を行ってきたことで、それぞれに協力し合いながら、活動することができた。
- ・ 園児の連絡事項等、共通理解しあう事ができていた。
- ・ 以上児会議等で、話し合い、また情報交換をし合うことで、共通理解し合えクラスが違っても対応できた。
- ・ 気になる子の保護者に対し、送迎時に園での様子、家庭での様子を伝え合い、少しでも理解してもらえるように努力した。
- ・ 感染症対策をしっかりと行い、換気・遊具消毒をして、自分達でできる対策に努めた。
- ・ 子ども達や保護者との連携を保ち、活動や行事など取り組んできたことで、協調性が育まれ、クラス全体にまとまりが月日とともに感じられた。
- ・ 行事では、早めに準備を行うことで、余裕をもって取り組むことができ、子ども達も楽しく自信をもって発表することができた。
- ・ 環境構成や活動内容を工夫して取り組んだ。
- ・ 行事や製作物等の進め方や分担、話し合いがその都度行い、スムーズに進めることができた。
- ・ 以上児クラスの人数が例年より少なかったため、いろいろな行事で合同で行う事が多かったが、その都度意見交換や情報共有をしっかりと保ち取り組むことができた。
- ・ 報連相を大事にして、一年間取り組んだ。

次年度への課題・改善点

- ・ 日々の保育に追われてしまう日もあり、個々に合わせた対応・声かけが十分にできないこともあったので余裕をもって取り組む。
- ・ 保護者と家庭と園の様子を詳しく話し合い、子どもの成長や課題を共通認識していく。
- ・ 基本的な生活習慣や給食時のマナー指導など個々の対応に欠けた部分があった。
- ・ 遊びのマンネリ化も見られたが、その遊びを好む子ども達もいるので、その見極めを大事にしていきたい。
- ・ 保護者とのコミュニケーションを積極的にとり些細なことでも伝え、信頼関係を築く。
- ・ 子どもの成長を急ぎすぎたり、他児と比べたりするのではなく、一人ひとりの個々にあった接し方をするように心掛ける。
- ・ 園児一人ひとりの個性を大切にしつつも、気になる子への支援の仕方を職員全体で共通理解し、実践していく。
- ・ 友達に対していい所を認めたり、思いやりの気持ちを持てるように声かけや援助仲介を心掛ける。
- ・ 保育者間での連携を保ち、共有しながら行事や活動、コーナー遊びなどの改善を図っていきたい。
- ・ 一人ひとりにあった学習や運動内容を工夫し、子ども達が自信を持って取り組める環境作りを心掛ける。
- ・ コロナ禍のため異年齢との関わりが持てなかったため、いろいろな活動を通して関わり的重要性や、一緒に活動することでの喜びを味わわせていきたい。
- ・ 子ども達が意欲をもって活動できるような取り組みを話し合いをする。
そして、一人ひとりの個性を伸ばしていけるように努力する。また、子ども達自身が発見する力や考える力を引き出していきたい。
- ・ 職員間での申し送り、引継ぎを丁寧にしていく。報連相をしっかりと行う。
- ・ 感情的になってしまう時は、自分自身も一呼吸おいて冷静になってから子ども達に接するように気持ちのコントロールが必要と感じる。
- ・ 子ども一人ひとりと向き合い、子どもの心に寄り添い、子どもへの言葉かけを大切にする。
- ・ 注意したことやけが、トラブルがあった時だけ保護者に伝えるのではなく、日々の様子やできなかったことができた時、思いやりの場面が見られた時なども、保護者に伝え保護者との信頼関係を築いていければよいと感じる。

令和6年度の評価点

【 子育て支援（一時預かり保育・休日保育） 】

- ・ コロナも落ち着きをみせ、できるだけ保護者に寄り添った内容・時間で一時預かりを受け入れるように努力した。ただ、行事や保育者の人数、感染症の発生状況に応じて受け入れできない場合もあるのでその点は丁寧に説明して理解してもらうよう心掛けた。
- ・ 休日保育も同様で、行事等の関係で休日保育ができない日もあることを伝える。一時預かりと同様、コロナも落ち着きを取り戻したため、他園からの受け入れを再度行った。他園からも一年を通して利用する姿があった。

次年度への課題・改善点

- ・ 一時預かり・休日保育とも、コロナ感染が落ち着いてきているので、以前のように保護者のニーズに対応しながら受け入れていく。
引き続き感染対策はしっかりと行う。

令和 6 年度の評価点

【 給食 】

- ・ 給食を作るにあたって声を掛け合い、確認し合いながらスムーズに作業できた。が、物価高騰、また気候の変動により食材が高く献立作りが大変だった。
- ・ 離乳食の献立作成、進め方について担当の職員としっかり話し合い進めることができ離乳食や除去食等については、伝達する事など分かるようにメモするなど意識して、努めた。担任の保育者ともうまくコミュニケーションがとれた。
- ・ 感染症対策を徹底し、清掃・整理・整頓を定期的に行う。
- ・ 食育活動を年長児と一緒にやり、食品が出来る過程を子ども達と一緒に共有できた。
- ・ 普段の子ども達の食事している様子を頻繁にみるように心掛けた。その都度、「おいしい」と声をかけられると嬉しかった。
- ・ 行事食では、品数・色合いなど子どもが目で見えて喜びそうな食事を工夫できた。

次年度への課題・改善点

- ・ 離乳食の進め方をもっと勉強してアップデートしていきたい。月齢に応じて調理するので、担任の保育者としっかりと話し合いをもち提供する。
- ・ 気を緩めずに衛生面をしっかりと第一に考える。(食中毒・コロナ対策) とともに自分自身の体調管理もしっかりと行っていきたい。
- ・ 昨年同様に、食育集会について、子ども達の状況や興味、関心のあることなど情報収集しながらテーマに盛り込むようにしていきたい。もっと興味・関心を持ってもらいたい。
- ・ 食材の発注ミスをしない。
- ・ 離乳食は、調理員全員で把握するようにするためにも、メモしたり、表にしたりしながら共通理解し合う。
- ・ 子ども達にとってオープンな給食室であるようにしたい。 そのためにも、職員や子ども達と常にコミュニケーション作りが必要と感じた。
- ・ 確認作業を怠らないようにする。
- ・ 保護者の方からも声をかけてもらえるような雰囲気づくりを心掛ける。また、給食室からもいろいろと発信していきたい。
- ・ 離乳食は、担任の職員と話し合いを密にしながら、これからも進めていく。
いろいろな変化が生じた時は、その都度話し合い良い解決方法を見つけ出す努力をする。
- ・ 「おいしい食事」「楽しい食事」の声が聞かれるように、さらに工夫しながら、子ども達に喜んでもらえるよう努力していく。



